

ペトロエクアドルとのアマソナス給油所土壌浄化プロジェクト開始式

JCCP はエクアドル国営石油会社のペトロエクアドルとの間で締結したアマソナス給油所土壌浄化プロジェクト契約にもとづき、平成 27 年度より本事業を開始しております。

アマソナス給油所で土壌浄化装置のオペレーションを 4 月に開始したことを機会に、5 月 12 日、エクアドル・キト市ペトロエクアドル本社にてプロジェクト開始式を開催いたしました。



(給油所全景 左側の安全地帯の地下に漏洩したタンク群が地下に埋設されている)

このプロジェクトは、エクアドルでも有数の販売数量を誇るペトロエクアドル直営のアマソナス給油所で発生した給油所の地下埋設タンクからのガソリン漏洩後の地中・水中に残留するベンゼン等の揮発性炭化水素成分を除去しようというもので、日本の進んだ環境技術がエクアドル国営製油会社ペトロエクアドルの環境対策に貢献することが期待されております。

本事業についてはコスモ石油(株)、明治コンサルタント(株)、(株)タツノの 3 者によるコンソーシアムが参加しております。

今回のプロジェクト開始式および現地コントラクターと日本側コンソーシアム間の技術会議はこの 4 月 15 日に就任の宣誓をしたペドロ・メリサルデ新総裁の要請で急きょ前倒して開催したもので、ペトロエクアドル側の本プロジェクトにかける熱意が伝わってまいります。

当初はペドロ・メリサルデ総裁と駐エクアドル野田大使ご出席のもと開始式を予定しておりましたが、前日の 5 月 11 日、ペトロエクアドル社のリベルタ製油所で発生した製油所火災の処理に総裁が陣頭指揮にあたることとなりましたので、12 日のプロジェクト開始式には、総裁にかわりホルヘ・レイエス国内販売部長が代理として出席されました。

冒頭の歓迎挨拶でホルヘ・レイエス国内販売部長が総裁のメッセージを読み上げ、火災対処のため、出席できないことを残念に思う、SS の土壌汚染対策に日本の環境技術に期待していると述べられました。

次いで、JCCP 平岡常務より、先ごろエクアドル北部の海岸地方を襲った大規模地震の被災者へのお悔やみをのべ、我が国熊本地方の地震にも敷衍し、両国の一日も早い復興を祈念すると述べました。ついで、ペトロエクアドルと JCCP とは技術者の研修を通じて実績があるものの、今回のプロジェクトはペトロエクアドルとの初めての技術協力分野における共同事業であり、今回の地下タンクからの漏洩をペトロエクアドルが安全かつ環境に配慮した形で処理できるよう JCCP は協力すると結びました。

来賓として挨拶された在エクアドル日本大使館板垣参事官からは、本プロジェクトが一企業の土壤汚染対策にとどまるものではなく、キト市民・エクアドル国民の健康・福祉に対する貢献であり、2018年に迎えるエクアドルー日本国交樹立 100周年にむけ大変意義のある事業であると述べられました。

最後にコンソーシアムを代表してコスモ石油(株)中山原油外航部長から、日本への原油安定供給源としてのエクアドルに注目が集まっており、本事業を通じてペトロエクアドルとの関係が深まることを期待していると述べました。

ついで記念品の交換を行いました。エクアドル側からはエクアドル特産のパナマ帽が贈られました。このパナマ帽は今回の地震で被害の大きかったエクアドル北西部の太平洋沿岸地方の特産品で、一日も早い地域復興の一助になればという思いが込められているとのことでした。



(左より、中山コスモ石油(株)原油外航部長、在エクアドル日本大使館板垣参事官、ホルヘ・レイエス・ペトロエクアドル国内販売部長、平岡 JCCP 常務理事)

次いで JCCP 事業を JCCP 平岡常務理事が紹介し、最後にこのアマソナス給油所土壤浄化プロジェクトの開始から今後の予定についてコスモ石油(株)久坂プロジェクトマネージャーがプレゼンを行いました。

最後にホルヘ・レイエス・ペトロエクアドル国内販売部長が、はるばる日本からきた JCCP とコンソーシアムのメンバーにねぎらいの言葉と今後の共同プロジェクトへの期待を述べ、プロジェクト開始式は終了しました。 以上